あなたの「かわいそう」を、他人に押し付けるな。

正義と感情の境界線を疑う、思考のレッスン

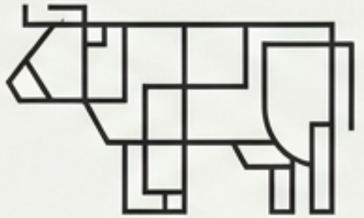
Gemini Notebook

私たちの奇妙な矛盾



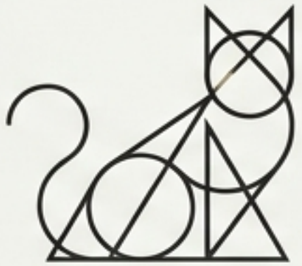
クジラ

殺すのは「かわいそう」



牛・豚

食べるのは「平気」



猫

殺すのは「嫌悪感」



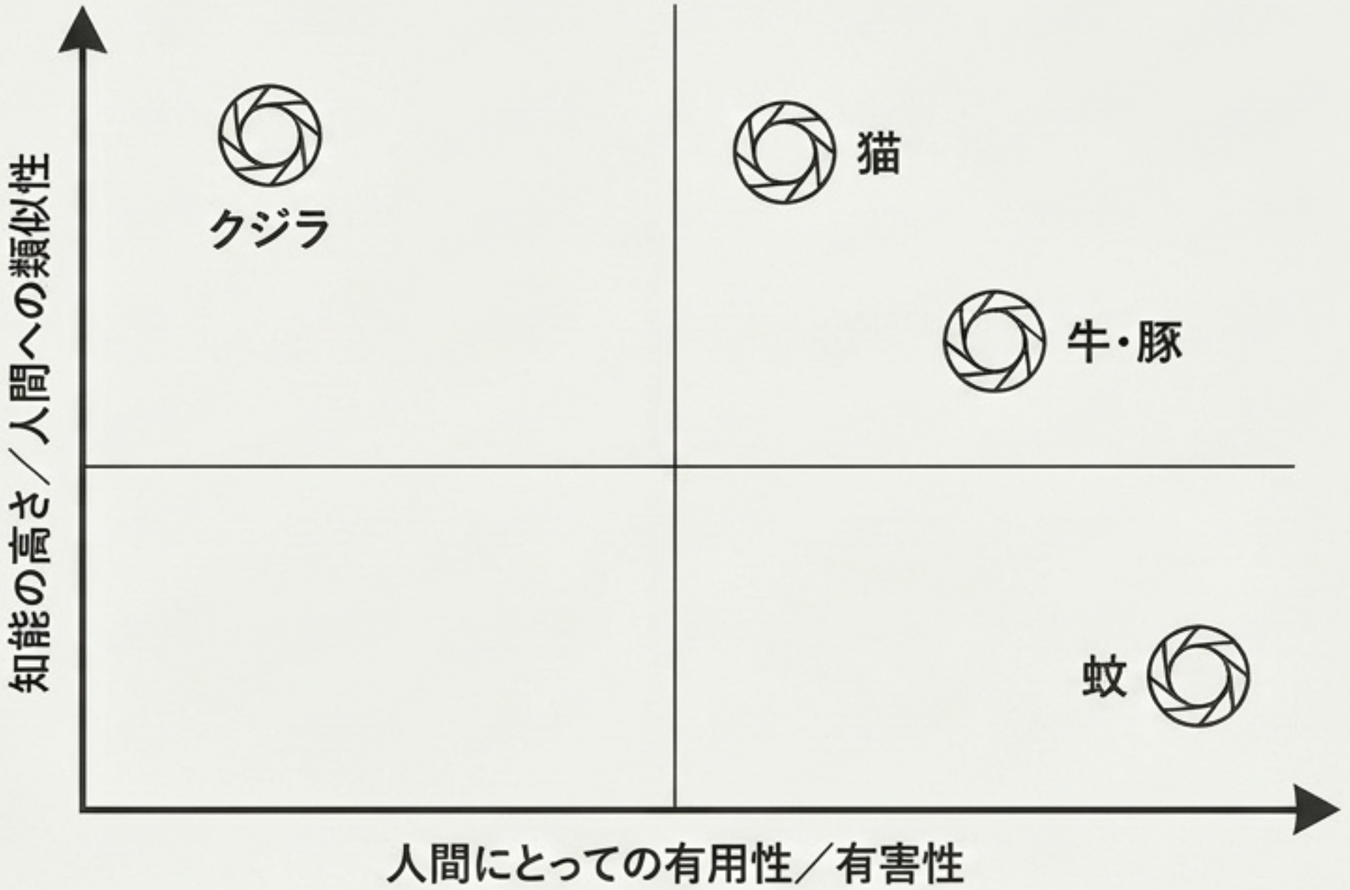
蚊

平気で「叩き殺せる」

なぜだろう？ 私たちは何層ものフィルターで命を「扱い分け」ている。

Gemini Notebook

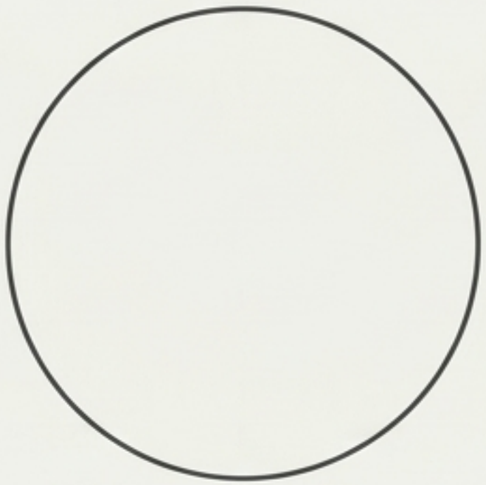
命の「選別」の正体



結局のところ、私たちは「絶対的な命の重さ」ではなく、
「自分の価値観」というフィルターを通して命を選別しているに過ぎない。

Gemini Notebook

価値観で命を分けること自体は、悪ではない。



・何を殺すことに罪悪感を覚えるかは、個人の自由な感情である。
・クジラをかわいそうと思う人もいれば、蚊を殺すことに罪悪感を覚える人がいてもいい。

しかし、ここから「大きな勘違い」が生まれる。

Gemini Notebook

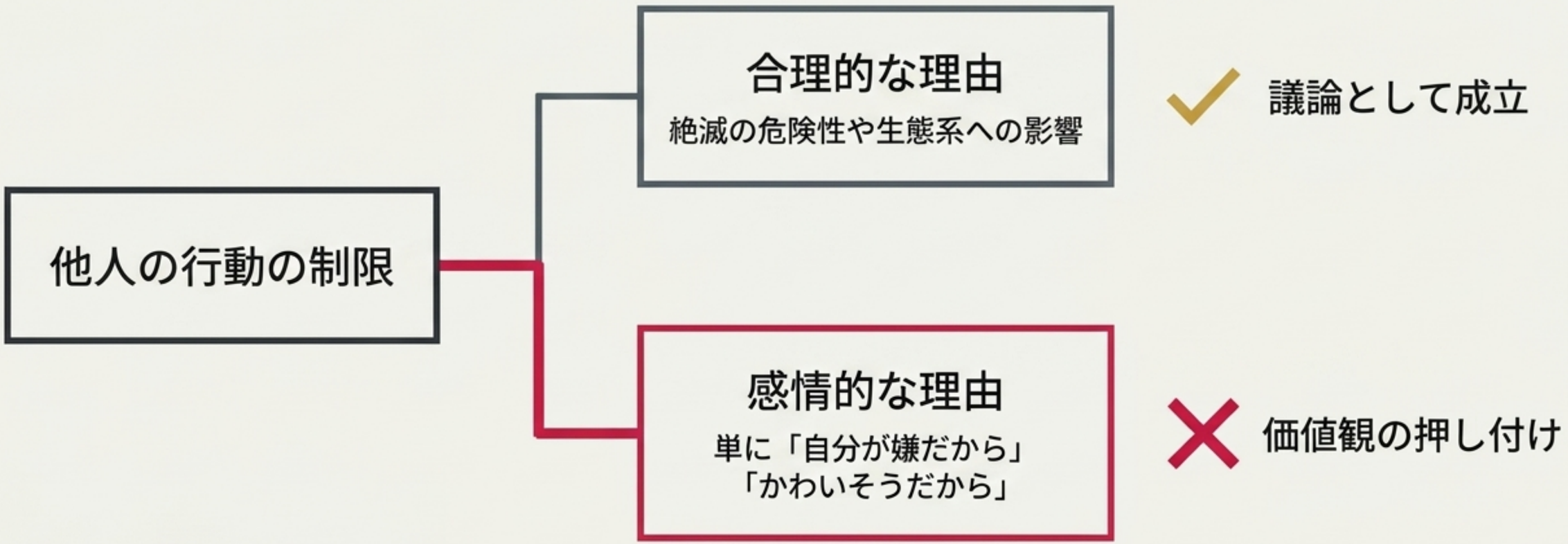
感情と要求の「越えられない壁」



「かわいそうだから」という個人の感情だけで、他人の文化や行動を否定する権利は誰にもない。

Gemini Notebook

「感情」と「合理性」を切り離す



Gemini Notebook

「かわいそう」が「絶対的な正義」に変わる瞬間

自分が
不快である

だから、
自分が正しい

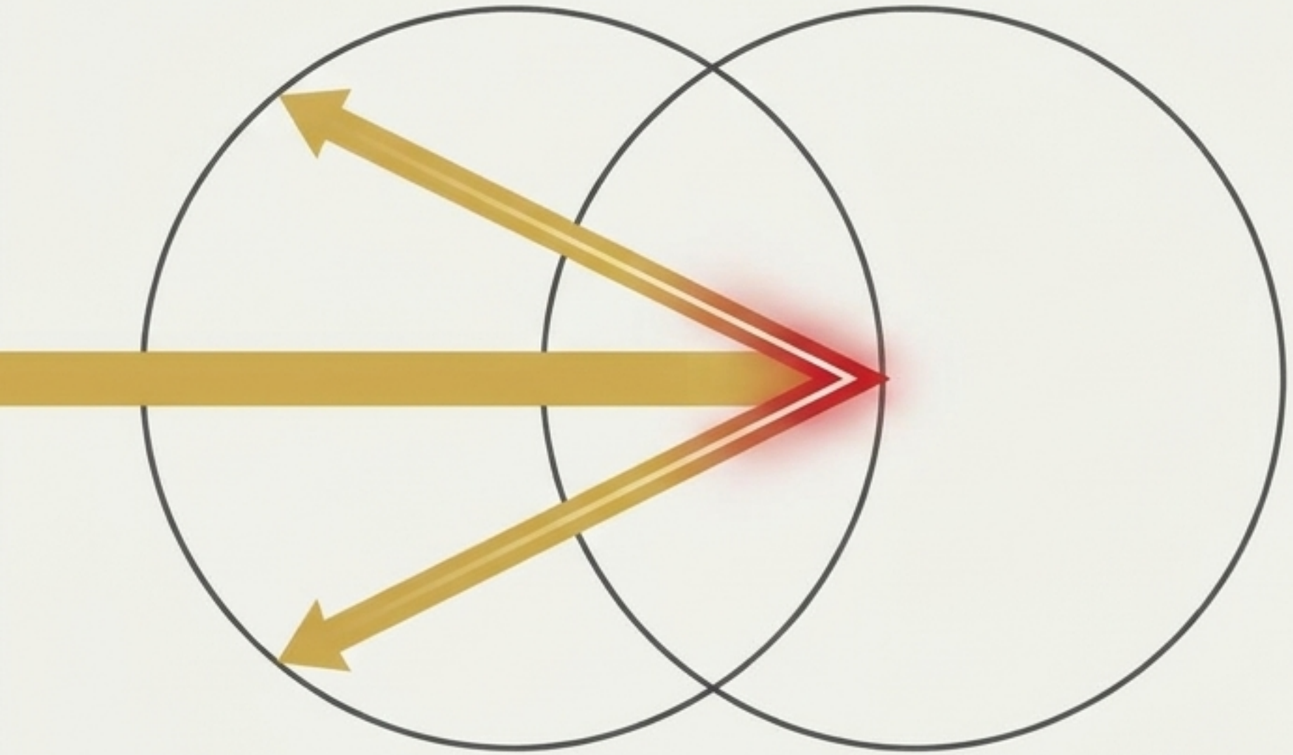
だから、相手が
間違っている

だから、相手は
悪人である

自分の感情を絶対的な正義だと思い込んだ瞬間、
自分と異なる他人の価値観はすべて「間違い」に変わってしまう。

Gemini Notebook

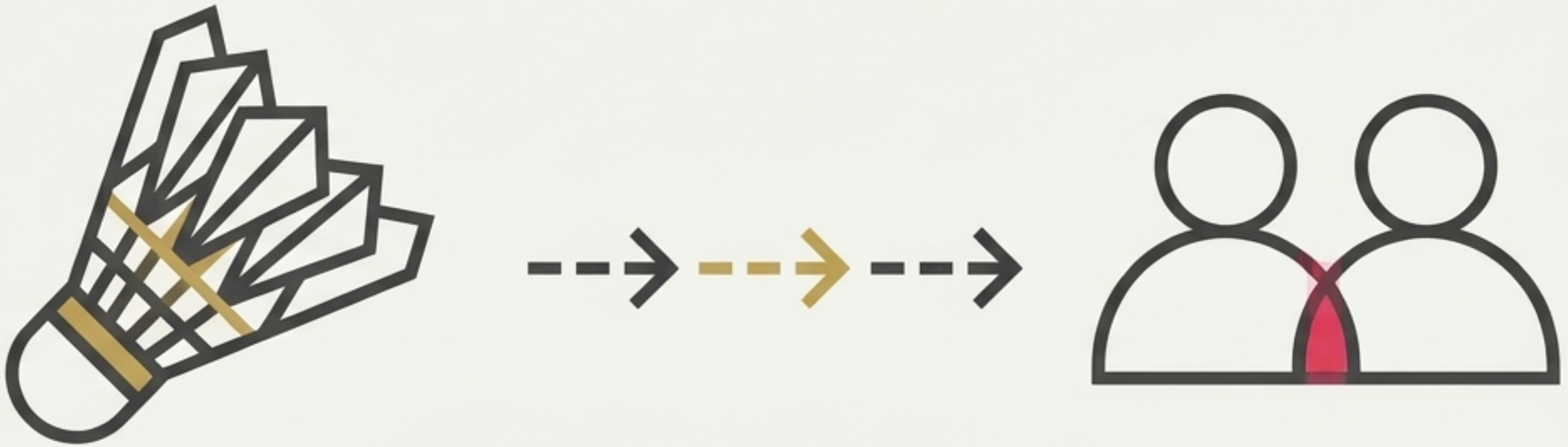
他人の矛盾を追及すると、自分の矛盾にたどり着く



- 「かわいそう」と思う自由は誰にでもある。
- しかし、「かわいそうと思わない人」を悪人にする権利は誰にもない。
- 感情を正義にすり替えたとき、私たちは自らの矛盾に気づかなくなる。

Gemini Notebook

この構造は、私たちの日常（教育・指導）にも潜んでいる

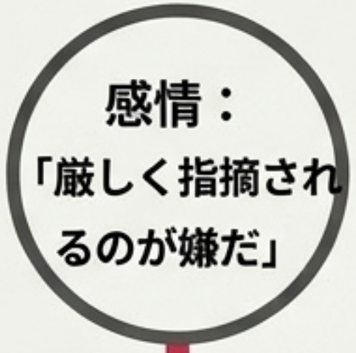


捕鯨問題の矛盾は、遠い海の話ではない。
そのままスポーツの指導現場や、職場での人間関係の摩擦にも当てはまる。

Gemini Notebook

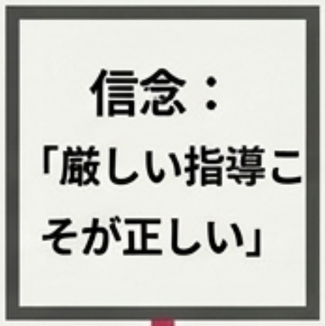
価値観の絶対視がもたらす「両者の罠」

【教えられる側】



暴走：「だから、厳しい指導をする人は悪だ」

【指導する側】



暴走：「だから、相手の事情や尊厳を無視してもよい」

どちらも、自分の価値観を絶対視する危険を抱えている。

Gemini Notebook

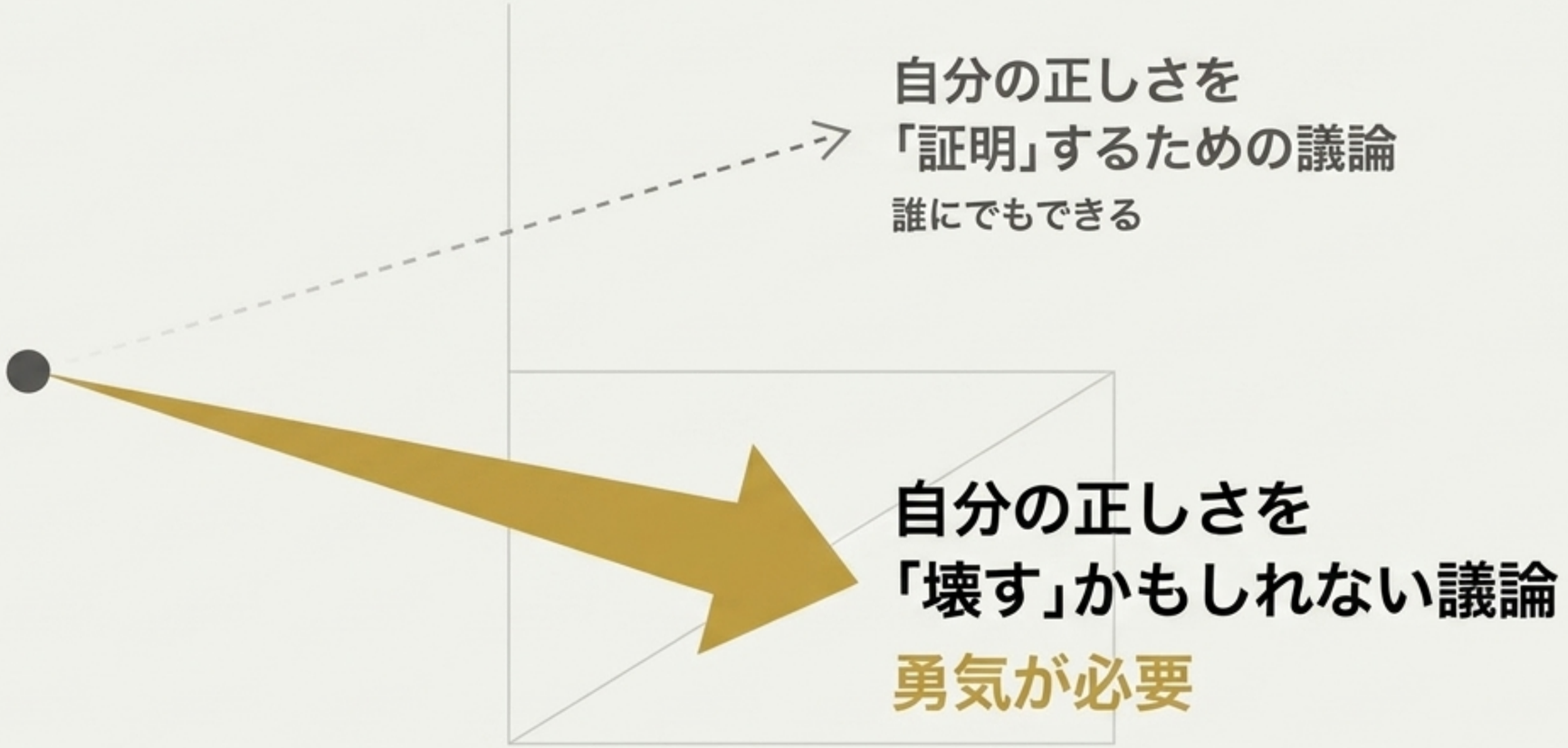
本当に恐ろしいのは、「価値観が違う人」ではない。



「自分の価値観が絶対に正しい」と信じて疑わない人である。

Gemini Notebook

成長は、自分の価値観を疑うことから始まる



他人の思い込みを指摘するだけで終わらず、
自分自身の思い込みまで疑うこと。

Gemini Notebook

価値観を更新するための3つの原則

1

感情の認知

自分の「かわいそう」や「不快」という感情自体は否定しない。

2

境界線の維持

その感情を「他人への要求（正義）」にすり替えない。

3

自己への疑い

他人の矛盾だけでなく、自らの「思い込み」を常に疑う。

Gemini Notebook

自分の価値観を持つことは大切だ。

しかし、その価値観を疑えなくなった瞬間、私たちの成長は止まる。

Gemini Notebook

思考を深くし、価値観を更新する。

豊田市・岡崎市近くのバドミントン教室
PHOENIX愛知
https://phoenix-aichi.net
TEL：080-6910-0479

自身の価値観を広げる議論と成長の場へ。

Gemini Notebook